

高齢者訪問看護の質指標の開発

老人訪問看護ステーションの制度化から15年が過ぎた。介護保険法の改正や、新しい医療制度の創設など高齢者ケアシステムをめぐる流れの中で、高齢者およびその家族に対する訪問看護の明確な位置づけと質の保証が必要とされているように思われる。

一方、看護学の研究活動も、看護系大学・大学院の増加とともに急速に発展してきた。さまざまな研究方法が試みられ、確かな技術をもつ研究者集団が形成されつつあると感じる。このような状況の中いまあらためて、研究方法の種類を越えて、研究目的に照らして最善の方法を用い、目的にかなう成果を得る研究過程、そして研究成果を実践現場に還元する道筋への注目が必要であるように思う。

本焦点では、過去3年間にわたって私たちが試みてきた、高齢者訪問看護の質指標の開発について紹介する。この研究の目的は2つある。

①「現在の日本において求められている高齢者訪問看護とは何か」を定義すること、②定義された高齢者訪問看護を実践し、その質を保証・向上するためのツールを作ること、である。このため私たちはさまざまな資料とデータを集約統合し、望ましい高齢者訪問看護の過程を具体的に示す質指標を、科学的な根拠をもって開発しようとしている。私たちは、この2つの目的を達成するために、最も合理的な研究方法は何かを考え、文献検討、エキスパートからの実践知の獲得、質問紙による全国の訪問看護師への調査etcという多角的な方法を含む研究過程をとっている。

この指標が看護実践に役立ち、さらに看護実践を形作る研究的取り組みとは何かを考える際の資料になることを願っている。

(企画：山本則子 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科)

この焦点で紹介した質指標は、『高齢者訪問看護の質保障のためのガイドライン—実践と調査研究に基づく質指標の策定(仮)』として日本看護協会出版会より、本年12月頃、刊行予定である。